

令和元年度第3回
平戸市総合戦略推進委員会
議 事 録

と き：令和元年10月15日（火）10：00～11：50
と ころ：平戸市役所 3階会議室A B

開催日時	令和元年 10 月 15 日（火） 10:00～11:50
開催場所	平戸市役所 3階会議室A B
出席委員 (50音順、敬称略)	赤木望、岡田眞、佐藤武郎、白石くみ子、田上和利、綱辰幸、 都野川直樹、豊増見喜雄、長崎屋容子、福田章、町田和正、 松山芳弘、馬渡勇一、山邊幸一、山本洋一（15名）
欠席委員 (50音順、敬称略)	欠席無し
事務局 (財務部企画財政課)	村田部長、田中課長、藤山班長、浦川主任主事
事業担当課長	地域協働課：峯野課長、健康ほけん課：池田課長、 子ども未来課：伊藤課長、大浦参事、長寿介護課：尾崎課長 教育総務課：石山課長、学校教育課：堀江参事監 生涯学習課：岩永課長
次第	(事務局)
1. 開会	
2. 副市長 あいさつ	町田副市長
3. 推進委員会 会長あいさつ	綱会長
4. 議題 (1)本市の人口動 態について 委員 事務局	(事務局説明) ●質疑・意見等 2019年の人口は、社人研の推計に近いのか、それとも平戸市推計に近いのかを説明いただきたい。 社人研の人口推計は国勢調査をベースにしている。資料4ページ以降の数値は住民基本台帳ベースであるが、国勢調査人口と住民基本台帳人口は差があるので、分析しづらいところがある。令和2年度が国勢調査年となっており、この調査結果を基に詳細に分析できるものと考え

<p>(2)平戸市総合戦略に係る平成30年度事業の実施状況等について</p> <p>【基本目標3】子育て支援</p> <p>委員</p> <p>担当課</p> <p>委員</p> <p>担当課</p> <p>会長</p>	<p>えている。</p> <p>【基本目標3】子育て支援 (事務局説明)</p> <p>●質疑・意見等</p> <p>地域めぐりあい創出事業の中で、カップル成立数があるがこの中で結婚した数はわかるのか。</p> <p>平成30年度のイベントでは成婚までは至っていない。婚姻する方向であると伺っているのが1組ある。イベントでカップルになっても、なかなか成婚までは至っていない状況である。</p> <p>事業に係る課題及び改善点で、「毎回苦慮している」ということであるが、この事業は最終的にカップルになって結婚してもらうようなことで集まる方が多いと思う。今月、3泊4日で民間企業の女子ソフトボールチームの合宿が市内で行われ、選手23名がいらっしやったが、市の男性職員と交流会を行った。過去に1組、結婚まで至った実績がある。こういう風に、合宿等で平戸市に来た時に交流の場を設ければ将来的に結婚までつながる事業になると思うので、色々な情報を取り入れながら事業を推進していただきたい。</p> <p>県でも、今年度から企業婚というのを始めており、婚活というよりも出会いの場の提供というふうになってきている。女性の方が本市で合宿いただけるのはウエルカムなので、色々な情報をいただきながら活用していきたい。</p> <p>アンケートについては、どの数値も低い。周知不足という説明があっ</p>
--	---

<p>事務局</p>	<p>たが、市はどのように考えているのか。</p> <p>周知の部分は、3月の推進委員会でも複数の委員からご意見いただいた。通常行っている広報や回覧はどこの部署でも行っているが、その他の取り組みについては内部協議を行ったものの結論は出していない。各課が懸命に取り組んでいる事業を取りまとめたものが総合戦略であり、それを周知、推進していくのは企画財政課の役目でもあると考えている。現在、企画財政課でシティプロモーション推進事業に取り組んでいるが、市が情報を出すだけではなくて、それを受け取る側の市民に、もっと平戸市に興味を持ってもらう、好きになってもらう取り組みを行うことによって、市の情報を取りに来てもらうというのも1つの目的であるので、そこをやっていくとともに、従来の広報や班回覧等だけで良いのか、今後も検討していきたいし、それ以外の周知方法を関係課とも協議しながら有効的な方法を模索したい。</p>
<p>会長</p>	<p>若い人も多いので、そこにどう伝えるかを検討いただきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>子育て支援で、国際的な人材を育成するために英語に注力するということが書かれているが、国際的な交流は平戸市はやりやすいと思っている。すでに市内の小中高校でも交流しているが、中国や韓国、東アジアを中心に学校交流の要望が挙がっている。これからますます増えていくと思うが、この交流を通して英語が学べる環境ができるのではないかと思う。フィリピンでは英語が国民全体で使われているが、カトリック系の中学、高校から学校交流の要望が来ている。宗教を交えた交流をする必要は全く無いが、英語を使った交流ができるのではないかと思う。もしそういうケースがあれば、受け入れてもらいたい。</p>
<p>担当課</p>	<p>中国や韓国などの子どもたちとの交流は、できるかぎり対応するようにしているが、新しい学習指導要領の本格実施により、小学校での英語授業の実施等、年間のカリキュラムが固まっているため柔軟な対応ができていないのが実情である。ただ、委員のご提案は有意義なもの</p>

	<p>であるので、持ち帰り検討したい。</p>
委員	<p>今のお話は通常授業の時期のことだと思う。例えば夏休みや春休みに、クラブを通した語学交流等により、できるだけ子ども達が語学に触れ合う機会を作っていただければと思う。</p>
事務局	<p>今のご意見は、文化交流課も絡んでくると思うので、内容を伝達させていただく。</p>
委員	<p>先日、小学校の体育館に行ったところ韓国の小学生とサッカー交流している風景を見た。事業を立ち上げた方とお話することができたが、4泊5日のホームステイだが、かわいくて本国に帰したくないと言っていた。期間や学校規模が問題ではなく、受け入れる気持ちが大事だと思う。英語に対する積極性が身につくのは後についてくる話であるし、私も協力したいと考えている。</p>
会長	<p>平戸市の子育て支援で、お気づきの点や不満なところは無いかな。</p>
委員	<p>「安心して結婚・妊娠・出産できるような環境・社会であると思う人の割合」だが、平戸市が安心して出産できる環境であるかということ、そうではないと思う。31.4%の方がそう思うと回答しているが、どういった理由でそのような回答になったのか。緊急時の対応の面で不安があるというのが、残りの約68%に現れていると思う。もっとフォロー体制があったほうが良いと思う。ファミリーサポートセンター事業について、私も子どもを預かる側に登録したいと考えているが、この事業を知らない人が多く、私も事業を紹介をしているのだが、知らない人に子どもを預けることはできないと言われる。事業内容について、発想を変えて周知の手段を変えてみてもいいのではないかなと思う。</p>
委員	<p>ファミリーサポートセンターについては、私も研修を受けて提供会員</p>

	<p>になっている。改善の部分になるが、1人に1人預けるようになっており、兄弟で預けたいときに別々に預けるため時間もかかるし、兄弟一緒に預けたほうが安心すると思うので改善ができないのか。また、送迎をお願いされたとき、チャイルドシートが必要だったため探したがどこにも無かった。育児用品貸出しと連携できれば、利用者も増えるのではないか。併せて、乳幼児健診の際にゆっくりお話ができるような場の提供ができないのか。まち協とも連携して、母親の会などができたらということも考えている。</p>
<p>担当課</p>	<p>医療機関が無い中であっても安心していただけるように、母子保健コーディネーターを配置して母子手帳交付の際に面談いただき、個人の心配や悩みをお話いただく機会を設けている。その中で、想定される不安などを共に考え、それぞれの妊婦の方やご家族に安心して過ごしていただくような策を検討している、ファミリーサポートセンターについては、少し料金が高いということがあったので今年度から半額を助成しており、利用者が少しずつ増えている。今後、送迎や兄弟がいらっしゃるようなケースに関して、私たちも発想を柔らかくし検討させていただく。</p>
<p>担当課</p>	<p>ファミリーサポートセンター事業での兄弟の預かりについては、以前は原則として1人につき1人でサービスを提供する方の自宅ということだったが、制度が変更になり、提供する側と依頼する側の合意に基づいて場所を決めることができるようになり、公民館の一室や子育て支援拠点施設などを利用できるようになった。チャイルドシートについては無償貸出しを行っており、期間を設定して皆様に使ってもらっているが、常時貸出しができる台数が無い状況である。チャイルドシートは子育て世帯は概ね所持していらっしゃると思うので、シートを乗せ替えていただくことが基本になると考えている。</p>
<p>委員</p>	<p>アンケートについて、結婚、妊娠、出産を一緒にして取っているが、どこに課題があるかというのをを見つけるために、分けて取ったほうが</p>

事務局	<p>良いのではないかと。また、産婦人科は市での誘致活動は難しいのか。私の職場の方も妊娠したらほとんど佐世保市に通っているが、近くに産婦人科が無いと、安心して妊娠出産できないと思う。市ではどのようにお考えか。</p> <p>アンケートは、平成 27 年度に総合戦略を策定する際、K P I として採用したものである。委員がおっしゃる通り、分けた形で取ったほうが分析しやすいと思うが、K P I としての数値の推移を見る必要があるため、今回まではこの形でアンケートを取らせていただいた。なお、次期計画については、なるべくアンケート結果をK P I として設定しない形にしたいと考えている。十分な数のアンケート回答を得られない場合もあり、より客観的に事業効果を計ることができるK P I を設定したいと考えている。</p>
担当課	<p>産婦人科の誘致については、過去に市民病院内への設置を検討していた時期があったが、昼夜を問わず医者や看護師を配置するとなると、採算が厳しい部分があり、また他市町からの利用者もあまり望めないところがあるため断念したという経緯がある。今後も難しいと考えている。</p>
委員	<p>出生数は、平均でどのくらいか。</p>
担当課	<p>最近では 230 人前後であったが、平成 30 年度は約 200 人程度である。</p>
委員	<p>生徒理解支援事業について、事業改善の欄で今後の課題が書かれているが、どのように改善していくのか。</p>
担当課	<p>ここに書かせていただいたQ Uアンケートは、以前、不登校生徒が多かった時期に、客観的に状況を把握して不登校の可能性のある生徒に手を差し伸べようということで始めた取り組みである。現在、中学生のみを対象として年度始めに 1 回実施しているが、その後の学級の変</p>

<p>会 長</p> <p>(3)平戸市総合戦略に係る平成30年度事業の実施状況等について</p> <p>【基本目標4】 定住・移住の促進</p>	<p>化に対応できていないのが現状である。2回実施は、予算等の関係もあり難しいと考えており、別の方法を検討している。</p> <p>市外や国外の学生との交流について、今後進めてはどうか。また、妊婦の方が安心して出産できる体制を整えてもらいたい。ファミリーサポートセンターについては、より使いやすい事業にさせていただき、子育て世代の交流促進を図るとともに、ニーズについてはより細かいアンケートにより対象者の意見を吸い上げる形を進めていただきたい。</p> <p>【基本目標4】 定住・移住の促進 (事務局説明)</p> <p>●質疑・意見等</p>
<p>会 長</p>	<p>UIターンに関して、平戸市に移住された方は、長期にわたって定住しているのか。</p>
<p>担当課</p>	<p>補助金を交付している方は、5年以上の居住を要件としている。平成27年度から制度開始しているが、これまで、個人の都合等により補助金を返還した数は4、5件であり、ほぼ継続して市内に居住している。</p>
<p>委 員</p>	<p>移住世帯数が伸びており大変良いことである。定住まで考えている方は、仕事、環境、住まいの課題があると思う。移住者の住まいに関して、賃貸物件なのか、購入なのかのデータがあれば教えてもらいたい。</p>
<p>担当課</p>	<p>平成30年度でいくと、中古住宅購入及び改修が6件、新たに移住してきて新築したのが12件、定住者が新たに家を建てたのが9件となって</p>

	<p>いる。移住者には、家を購入するよりもまず賃貸で住んでみてはどうかと勧めている。</p>
<p>委員</p>	<p>都会から来る方は、小さなアパートよりも広い家に住みたいという憧れがあると思う。また、都会から来る人は仕事を辞めてから来る。その方々のうち、最初から家を持ちたいという方は住宅金融公庫からお金を借りることができない。このため最初は賃貸をし、その間に仕事でお金を貯めないと公庫に申し込めないという現実がある。本日は金融機関の委員もいらっしゃるので、金融・融資面でのバックアップをしてはどうかと考える。</p>
<p>担当課</p>	<p>現時点では、そこまでの施策を考えていないのは事実である。現在の補助制度は5年目となって浸透してきているが、次はそこに踏み込んでいかなければならないとも考えるので、今後検討していきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>お試し住宅の期間は、6か月か。</p>
<p>担当課</p>	<p>現在、お試し住宅は2軒あり、1週間から1か月となっている。</p>
<p>委員</p>	<p>空き家バンクについて、現在は90件ぐらいあると思うが、平戸市のホームページを見ると割高に感じる。そこにリフォームをする必要があると思うので、売買は1,000万円だがトータル1,500万円となる。補助金が50万円出ても、移住者の負担はおおきい。価格を交渉してディスカウントした方が、移住者の目に留まりやすいと思う。</p>
<p>担当課</p>	<p>空き家バンクの家の所有者は都会の方が多く、現在住んでいる場所の相場が頭にあるのが現状である。不動産屋と協議して価格設定を行うが、内覧をして協議すれば少し下がって交渉成立するのが現実である。当初は所有者から提示された額を出さざるを得ないので、「価格応相談」等の表記をつけるような交渉をしていきたい。</p>

委員	<p>UIターンについて、移住の相談件数が132件と順調に推移しているが、相談を受けたがこれがネックでUIターンできなかった、という事例があったらお教えいただきたい。</p>
担当課	<p>希望している家が、海や夕日が見えるところや、家庭菜園できる家だったりするケースがあり、平戸市と佐世保等の近隣自治体と比較し、希望物件が近隣にあってそちらに移住したケースがあった。仕事が無くて断念したケースは直接聞いていない。</p>
委員	<p>空き家バンクの情報収集はどのように行っているのか。</p>
担当課	<p>過去には、固定資産台帳で市外に住んでいる方に文書を出したり、数年前に都市計画課が空き家調査を実施した際、空き家をランク付けして、住める家の所有者に通知を出したりした。現在は99件だが、これは延べ数であり、伸びていないのが現状である。交渉可能なのはホームページにある20数軒であるため、区長さんに情報提供を依頼したり掘り起こしに努めているが、仏壇があったり荷物が多かったり、帰省するために残しておく等の理由で増えていないのが現状である。</p>
委員	<p>グリーンヒルズ販売促進事業について、今後の見直しで集合住宅の誘致とあるが、販売が進まない要因として近郊に飲食店が無いということがある。近隣に道の駅があるが、そこの融和が図れないのか。また、地域医療については生月病院及び平戸市民病院の統廃合を促進するような新聞報道がなされた。予算は年度を追う毎に増加しており、臨床研修医療も相当数受け入れている一方で、指導医が1名で助教医師の確保が課題とあるが、臨床で人は来るが教える人がいないという矛盾点を感じるが、そのところをお聞かせいただきたい。</p>
担当課	<p>地域医療人材育成事業について、予算は平成30年度で約1,700万円、令和元年度で2,300万円となっているが、その差は、指導医1名分の人件費の差である。平成25年度から指導医が不在であり、長崎大学に</p>

	<p>も相談しているが、長崎大学自体も人が足りないということで厳しい状況である。平戸市での勤務医確保が目的だが、実際には常勤の勤務医確保には至っていない。</p>
事務局	<p>グリーンヒルズについては、本日は担当課が出席していないため詳細はお答えできない。道の駅との融和については良いアイデアが浮かばないが、グリーンヒルズの販売が進まない区画の理由の一つに、掘り込み式の車庫でワンボックス車が入らないということがある。このことを改善するために、1～2区画を潰してそこを駐車場に整理する考えである。</p>
委員	<p>移住定住の件数に、U I ターン者による新たな創業の数は入っているのか。</p>
担当課	<p>補助制度を活用した方については入っている。引っ越し費用も上限 20 万円出しているが、市民課から転入の連絡があって補助に関する面談を行い、5 年以上住む場合は引っ越し費用を助成している。創業される方は基本的に長く居住されるので、数に入っていると思う。</p>
委員	<p>カウントが別々であれば、「うち〇件は商工物産課との連携」など、商工物産課と連携した数字を出してもらいたい。</p>
委員	<p>人口減少の問題だが、私の地区も後継者がほとんどいない。それぞれの家庭が、後継者を家に置かなかった。自分が苦勞してきて、子どもには苦勞させたくないのので都会に出してきたこともあると思う。先ほどから子育て支援の話が出ているが、子育てしても家に残さなければ何もならない。子供たちが残ったり帰ってきたりすれば、そこまで人口も減らないのではないか。各家庭に子どもを1人は残すようなことができればいいのだが。</p>
事務局	<p>昨年から、高校魅力化プロジェクトという事業に取り組んでいるが、</p>

	<p>事業の一環として生徒はもちろん保護者にもアンケート調査を行った。その中で、子どもを地元に残したくないという方が4分の3であった。高校魅力化というのは、地元の高校の魅力を高め、少しでも地元の子どもたちが魅力を感じて市内高校に通い、地元への定着あるいは一旦市外に出ても戻ってくるような形となるための事業であるが、並行して保護者の方々にも語りかける必要があるのではないかと考えている。シティプロモーション事業も、市民に平戸を知ってもらい好きになってもらうことを目的としている。高校魅力化プロジェクトは、高校メインの取組みではあるが、色々と忙しいであろうが小中学校とも連携しながら、生徒の保護者にも働きかけを行っていきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>我々の世代は右肩上がりの経済を経験しているため、都会に行けば何とかなるものと考えてしまう。その考え方を変えていかないと、現代の価値観は変わってきているし、若者の価値観も変わってきている。必ずしもお金持ちにならなくてよいという方もおられるし、そういう方が平戸市にU I ターンしている現状もある。一旦都会に出たいという若者の考え方はなかなか変えられないとは思いますが、私たちは若者が平戸に帰ってこようと思ったときに、受入体制を整え平戸でもこのような生活ができるんだという形を整えるのが仕事だと思う。保護者にも、都会に出れば何とかなるという考えを変えていただくように啓発していく必要がある。</p>
<p>委員</p>	<p>私はよく子ども達に平戸の良いところを話すが、U I ターン者がSNSで平戸の良さを発信しているが、それがすごく良く負けれないという思いがある。だが、地元の方には平戸には何も無いという方も多い。子ども達に、平戸は良いということを言い続ける必要がある。平戸の良いところも言わず、帰ってきてほしい、どうしたらいいのかと話しているだけでは改善策にならない。どれだけ努力するか、どれだけ魅力を伝えられるか、どれだけ日々発信するかということが、子ども達を育てることにつながる。見本になる大人がどのような行動を取るかというのが大事だと思う。</p>

委員	<p>まちづくり運営協議会を立ち上げるとき、地元の良いところなどを議論してきたが、肝心の平戸北部がまだ立ち上がっていないのがとても残念である。平戸北部でもぜひ立ち上げていただき、魅力をみんなで共有していただきたい。</p>
担当課	<p>平成 25 年度から、まちづくり運営協議会に関する取り組みを行っており、平成 30 年度は中野地区と根獅子・飯良地区で計画が策定され、今年度に田助地区と平戸地区にて話を始めた。田助地区は話が進んでいるが、平戸地区では 2 回会合を持ったが、まだ進んでいない現状である。行政の押し付けではなく、話し合いのうえで合意する必要があるため、時間をかけてでも組織できるよう努力していきたい。</p>
会長	<p>移住定住に関しては家の部分と経済的負担の障壁があるので、そこを何とかしていただきたい。空き家バンク等は、移住者しやすいよう改善いただきたい。移住だけではなくて市外に出さないというお話であったが、移住自体は憲法で認められているので止めることはできない。行政だけではなく民間も含めて、どのようにすべきか考える必要があり、市内の方が平戸の魅力を伝えていくことかと思う。長く住んでもらう平戸にするためにどうすべきか、引き続き官民で考えていかなくてはならないと思う。</p>
(4) その他	<p>次回は、次期総合戦略についてご協議いただきたい。11 月下旬開催予定とさせていただいているが、改めて委員の皆様には連絡させていただく。</p>
5 閉会	<p>会議終了</p>